

卷頭 **先生なら、どうしますか？**

虚勢を張ってきた私が、問題を起こし続ける生徒に
「君たちを信じる」と伝え、まず自分が変わることを誓った
大阪府・私立箕面自由学園高校 大東範行

2 特集

生徒の学びの機会をどう保障するか？

- 4 課題整理 現代の高校生の「学びの機会」はどのような課題に直面しているのか
- 8 現状把握 学びの機会を保障する取り組み・制度
- 10 遠隔授業 北海道高等学校遠隔授業配信センター
- 13 定時制 宮城県・仙台市立仙台大志高校
- 16 通信制 岡山県・私立岡山理科大学附属高校通信制課程
- 19 地域連携 HAMADA 教育魅力化コンソーシアム
- 22 地域連携 宮崎県立高千穂高校
- 25 本特集を振り返って 福井大学連合教職大学院 教授 中森一郎 × VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

28 発問・課題設定をキーに見る
主体的・対話的で深い学び 授業実践

28 地学

山形県立鶴岡中央高校 五十嵐雄大

32 数学

東京都立両国高校・附属中学校 小笠原大峻

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

36 探究学習 つながり、伴走する教師たち

新潟県立長岡向陵高校

テーマ 探究×産学官連携

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

38 事例で深める！ 学習評価

北海道当別高校

テーマ「総合的な探究の時間」の学習評価

お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

40 指導変革の軌跡

埼玉県・私立西武学園文理中学・高校
実践型教育の推進お勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

44 大学入試トレンド解説

2025年度大学入試の出願指導ポイントと
今後の大学入試に向けて求められることお勧めの分掌 管理職 教務担当 進路担当 担任

52 Reader's VIEW

今年度の弊誌の特集は、「読解力の育成」「定期考査の廃止」「非認知能力の育成」「自己調整学習」といった、そう遠くない未来に、多くの学校において話題や課題に上がると思われるテーマを取り上げてまいりました。ただ、それらはいずれも、生徒にとって学校という場や学びの機会が保障されている前提でお伝えしてきたものです。

しかしながら、現在の日本の学校教育においては、生徒の学びの機会の保障が危ぶまれる事態が生じています。そのレベルは、学校や地域全体に及ぶものから個々の生徒の中で起きているものまで様々です。そして、今号でご紹介する事例の学校等が置かれている状況や環境が読者の先生のご勤務校と異なる場合、一見すると、本特集のテーマはご自身とは関係の薄いものだと思われるかもしれません。ただ、事例の各校等が向き合っている課題は、その規模や影響の範囲の大小に違いはあるが、本質的には多くの学校で生じている課題、あるいは今後顕在化していく可能性のある課題だと思われます。ぜひこうした視点で本特集をお読みいただき、自校の生徒の学びの機会を今後、どう保障していくのかという問い合わせを考える一助にしていただけますと幸いです。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

現代の高校生の「学びの機会」は
どのような課題に直面しているのか

P.8 現状把握

学びの機会を保障する取り組み・制度

P.10 事例1 遠隔授業 北海道高等学校遠隔授業配信センター

小規模校が多様な教科・科目を設置できるよう、
ICTを活用し、リアルタイムに授業を配信

P.13 事例2 定時制 宮城県・仙台市立仙台大志高校

生徒の入学動機、学習歴、学びの特性を理解し、
安全・安心な学習の場をつくる

P.16 事例3 通信制 岡山県・私立岡山理科大学附属高校通信制課程

生徒が学び方を選んで学ぶ環境を整備し、
自分のペースで自立できるよう、生徒を支援

P.19 事例4 地域連携 HAMADA 教育魅力化コンソーシアム

学校と地域、そして学校同士がつながり、
各校が教育活動を充実させる

P.22 事例5 地域連携 宮崎県立高千穂高校

地域の教育資源を生かした学校魅力化を
3町と県立高校が協働して推進

P.25 本特集を振り返って

社会のシステムの一環として、学校が社会とつながり、
多様な生徒の学びを保障する

福井大学連合教職大学院 教授、独立行政法人教職員支援機構 フェロー 中森一郎

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

生徒の学びの機会を どう保障するか？

生徒は、様々な入学動機や学習歴、興味・関心、希望進路を持つて高校に入学する。また、日本各地で人口減少が進行する中、一人ひとりの生徒が生活する環境や、生徒が通う学校の置かれた状況、学校が所在する地域の教育資源は一様ではないのが現状だ。さらに、教育課程の基準として定められている学習指導要領や、求められる教師のあり方、学校が整備

先生方とともに
考えたい「問い合わせ」

生徒の学びの機会を保障するために、
自校は何ができるのだろうか。

すべき学習環境などもまた、社会の状況に応じて変容してきた。生徒一人ひとりの学びのニーズに応え、学びの機会を保障するために、今、学校には何が求めら

れるのか。「学校の小規模化」「生徒の多様化」「探究学習等の学びの充実」の課題に先進的に取り組む事例を通して考える。

生徒の学びの機会を保障することについて 学校現場の課題感

学校の小規模化

 人口が減少している地域では、高校入試での競争がなくなり、中学生にとって学習するインセンティブが少ない。コミュニティーの同質化が進んだ結果、学びに価値を見いだせない保護者が増えている。さらに、良質な私立学校や学習塾、大学等の教育資源は都市部に集中している。教育環境は悪化する一方だ。
(千葉県・公立)

 現任教校のある地域は、子どもの数が減り続けている。今後、学

級数がさらに減り、教師の数も減れば、学校行事等の維持が難しくなるだろう。教師1人あたりの仕事量が増えることで、授業研究等にも影響が出る。それらの問題に対応するためには、教師の配置数の増加が必要だ。

(栃木県・公立)

 少子化が進む中で、地域の生徒や保護者に「選ばれる学校」として魅力を高めるヒントや実践例を知りたい。
(愛媛県・公立)

生徒の多様化

 目標や目的があって入学してきた生徒が、思い描いた高校での学びと実際の学びとのギャップを感じて、学ぶ意欲が低下している例が見られる。
(静岡県・公立)

 不登校の生徒数が増加している。それに加え、オンライン学習による単位認定がされることも話題になっている。それらの対応が急務だと感じている。
(三重県・私立)

 通信制課程の教師から聞く、「全日制に行けないから通信制に行く」という生徒や保護者の価値観が変わつつあると感じる。通信制でも探究学習に取り組み、非認知能力の育成や自己肯定感の向上に力を入れている。通信制のそうした取り組みや心理的安全性の担保といった視点を、全日制の私たちも学ぶべきだと思う。
(栃木県・私立)

探究学習等の学びの充実

 「総合的な探究の時間」における活動だけで、探究学習を意味のある学びにすることは難しい。もっと根本から変えなければならぬと考えている。
(和歌山県・公立)

 自治体を挙げて探究学習に力を入れている地域もあるが、本校の近隣には大学がなく、地域に企業も

少ない。どのように地域と連携すればよいか考えあぐねている。
(福井県・公立)

 地域の企業や団体との連携があたり前になってきているが、連携先への依頼や交渉に時間がかかる大変だ。他校ではどのように取り組んでいるのかを知りたい。
(山口県・公立)

※『VIEW next』高校版・次年度誌面に関する読者アンケート 2023・2024年度、『VIEW next』高校版読者モニターアンケートを基に編集部で作成。